

平成28年度行政事業レビューシート (厚生労働省)

事業名	医薬品研究開発動向等調査費			担当部局庁	医政局			作成責任者	
事業開始年度	昭和63年度	事業終了 (予定)年度	終了予定なし	担当課室	研究開発振興課			課長：神ノ田 昌博	
会計区分	一般会計								
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-			関係する計画、 通知等	I-8-1 革新的な医療技術の実用化を促進するとともに、医薬品産業等の振興を図ること				
主要政策・施策	-			主要経費	その他の事項経費				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	医薬品等の研究開発を促進するためには先進的な研究開発の動向を把握し、今後の施策の方向性を検討するほか、振興策が必要な各分野別の状況に応じて施策を実施する必要がある。								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	先進的な研究開発の動向を文献、学会等との意見交換の場、視察等の機会を利用して把握し、振興策や必要な規制等の検討を行う。日本古来の漢方の原料となる薬用植物の栽培研究への支援、日本への導入が望まれながらも患者数が少ない等の理由により開発が進まない希少疾病医薬品等の開発を支援するために必要な情報の収集等を行う。								
実施方法	直接実施								
予算額・ 執行額 (単位:百万円)			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度要求		
	予算 の 状 況	当初予算	19	18	17	16	19		
		補正予算	-	-	-	-	-		
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-		
		予備費等	-	-	-	-	-		
	計		19	18	17	16	19		
	執行額		11	17	13	-			
執行率 (%)		58%	94%	76%	-				
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 28 年度
	前年度以上の治験届出数 達成を目指す。	治験届出数	成果実績	件	601	601	657	-	-
			目標値	件	556	601	601	-	657
			達成度	%	100.2	100.2	109.3	-	-
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 28 年度
	前年度以上の国際共同治 験届出数の割合達成を目 指す。	国際共同治験の割合	成果実績	%	28.1	29.6	42	-	-
			目標値	%	23.4	28.1	29.6	-	42
			達成度	%	120.1	105.3	141.9	-	-
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込	
	厚生労働科学研究費評価委員会、オールジャパンでの 医療機器開発合同推進委員会等の会議開催回数	活動実績	回	19	21	11	-		
		当初見込み	回	12	19	10	11		
活動指標及び 活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込	
	支援研究課題数	活動実績	件	199	223	190	-		
		当初見込み	件	199	223	190	159		
単位当たり コスト	算出根拠			単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込	
	執行額/厚生労働科学研究費評価委員会、オールジャ パンでの医療機器開発合同推進委員会等の会議開催 回数	単位当たり コスト	百万円	0.6	0.8	1.1	1.5		
		計算式			11/19	17/21	12.6/11	16/11	
単位当たり コスト	算出根拠			単位	25年度	26年度	27年度	28年度活動見込	
				単位当たり コスト	百万円	0.1	0.1	0.1	0.1

コスト		執行額／支援研究課題数		計算式	執行額／支援課題数	11/199	17/223	12.6/190	16/159
平成28・29年度予算 内訳(単位:百万円)	歳出予算目	28年度当初予算	29年度要求	主な増減理由					
	諸謝金	1	3						
	職員旅費	0.3	1						
	委員等旅費	0.7	2						
	医薬品審査等業務庁費	14	13						
	計	16	19						

政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	施策大目標8 革新的な医療技術の実用化を促進するとともに、医薬品産業等の振興を図ること										
	施策	革新的な医療技術の実用化を促進するとともに、医薬品産業等の振興を図ること(施策目標I-8-1)										
	測定指標	定量的指標				単位	25年度	26年度	27年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度	
		臨床研究登録情報の検索ポータルサイト閲覧数				実績値	件	-	1,110,776	1,607,601	-	-
						目標値	件	-	150,000	1,110,776	-	-
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係											
	成果目標の成果指標である「治験届出数」及び「国際共同治験の割合」は、国内における治験及び国際共同治験の活性度を示す指標であり、これらの指標が増加することにより、測定指標である「臨床研究登録情報ポータルサイト閲覧件数」も増加することが考えられる。臨床研究登録情報ポータルサイトの閲覧件数の増加は、国民・患者にとっての利用のしやすさの向上を表していると考えられるため、その数値を上申させることにより、医薬品産業等の振興をより一層促進することができる。											
	改革項目	分野:	-									
	アクション・プログラム 経済・財政再生 プログラム	KPI (第一階層)	KPI (第一階層)				単位	計画開始時 - 年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
			-				成果実績	-	-	-	-	-
目標値							-	-	-	-	-	
達成度		%					-	-	-	-		
KPI (第二階層)		KPI (第二階層)				単位	計画開始時 - 年度	27年度	28年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
		-				成果実績	-	-	-	-	-	
	目標値					-	-	-	-	-		
達成度	%					-	-	-	-			
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係												
-												
事業所管部局による点検・改善												
	項目					評価	評価に関する説明					
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。					○	医薬品の研究開発等は、広く国民からのニーズがあるものであることから、調査や情報収集を行うためにも優先度が高く、国費を投入すべき。					
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。					○	医薬品等の研究開発の促進のため、国の採るべき政策の検討、必要性が高いが患者数が少なく研究開発が進んでいない医薬品等の開発支援のための情報収集等について、国が実施すべきものである。					
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。					○	医薬品の研究開発等は、広く国民からのニーズがあるものであることから、調査や情報収集を行うためにも優先度が高い事業である。					
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。					-						
	一般競争入札、総合評価入札又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。					無						
	競争性のない随意契約となったものはないか。					無						
	受益者との負担関係は妥当であるか。					-						
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。					○	事業費や研究費等の状況に応じて実施しており、妥当である。					
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。					-						
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。					○	予算の執行は、全て厚生労働省で直接行っており、事業目的に基づき適切に実施している。					
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。					○	治験届出数は増加しており、成果目標に見合った実績を上げている。					
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。					-						
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。					○	当初見込み並みの実績となっている。					
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。					○	調査や情報収集等の成果報告を受け、事業への反映に努めている。					
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)					-						
	所管府省・部局名		事業番号		事業名							
	-		-		-							
点検・改善結果	点検結果	予算は全て厚生労働省で直接執行しており、全ての支出先を把握している。一定程度の実績を維持しており妥当であると考えられる。平成27年度における治験届出数及び国際共同治験の割合はともに増加している。今後も、状況に応じて施策を実施し、適切な運用を心がけて事業を行っていく。										
	改善の方向性	事業費や研究費等の状況等も踏まえ、調査や情報収集等の進め方について工夫を行っていく。										

外部有識者の所見

・執行額の大半が調査関連の期間業務職員人件費となっていることから、本調査事業の成果物や活用状況をアウトカムやアウトプットとして設定し、有効性・効率性を点検した方が良いのではないか。また、単位当たりコストが年々増加しているが、これも会議開催で除したことによるものでミスリードする可能性があることから、適切な活動指標を追加し事業評価を行って頂きたい。(栗原 美津枝)

行政事業レビュー推進チームの所見

事業内容の一部改善

外部有識者の所見を踏まえ、レビューシートの記載内容の改善を図ること。

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

執行等改善

ご指摘の所見を踏まえ、事業の効果測定をより適切に行えるよう、新たな活動指標として支援研究課題数を追加設定した。

備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	236	平成23年度	211	平成24年度	178	
平成25年度	205	平成26年度	218	平成27年度	227	

※平成27年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

厚生労働省
13百万円

(研究開発の促進等の企画)



A.事務費
13百万円

(諸謝金、旅費、会議費、事務補佐員雇上経)

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位：百万円)

